

会 告

第 95 回講演大会講演募集案内

申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和53年 1 月14日 (土)

本会は第95回講演大会を昭和53年 4 月 4 日 (火), 5 日 (水), 6 日 (木) の 3 日間東京大学において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。講演希望者は昭和53年 1 月14日 (土) までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

なお、今講演大会よりポスターセッション (春季講演大会のみ開催) を設置いたしました。申込希望者は一般講演と同じ手続でお申し込み下さい。ポスターセッションに関する詳細は N245 ページに掲載いたしております。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分 (ポスターセッションは別記参照)
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む) 原稿が 2 枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図表の説明は和文とします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえで、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは 1 人 3 件以内といたします。
6. 申込方法 14号会告末に添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について (ポスターセッションへの申込の場合は、申込書の右側に P.S 希望と朱筆して下さい)
 - 1) 申込用紙は (A), (B) とともに太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、前 14号会告末に綴込であります。)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和53年 1 月14日 (土) 12時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社) 日 本 鉄 鋼 協 会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

講演分類

製 鉄						製 鋼					加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			材 料										
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	管理環境・情報	その他			

昭和 53 年日本鉄鋼協会行事予定

行 事 名	期 日	場 所	備 考
(講演大会) 第 95 回 (春季) 講演大会 第 96 回 (秋季) 講演大会	4 月 4 日, 5 日, 6 日 10 月 3 日, 4 日, 5 日	東京大学 (東京) 富山大学 (富山)	申込締切 1 月 14 日 〃 7 月上旬
(西山記念講座) 第 50 回・51 回 (鋼管製造技術の最近の進歩)	(50回) 2 月 15 日, 16 日 (51回) 3 月 9 日, 10 日	(東京) (大阪)	
第 52 回, 53 回 (表面処理製品の製造技術と 関連分野の最近の進歩)	(52回) 6 月 7 日, 8 日 (53回) 6 月末	(東京) (広島)	
(セミナー) 第 4 回鉄鋼工学セミナー	7 月 31 日 (夕方) ~ 8 月 4 日	蔵王ハイツ (宮城)	申込締切 5 月 31 日
(国際会議) The International Iron and Steel Congress	4 月 16 日 ~ 20 日	Chicago	問合せ先 日本鉄鋼協会国際課
第 3 回日独セミナー	4 月	西 独	

第 95 回講演大会 (昭和 53 年春季)

ポスターセッション講演募集案内

申込(原稿同時提出)締切り 昭和53年1月14日(土)

春秋に開催する講演大会には、15分発表型式と討論会型式の講演発表があります。今回、講演発表の効果をあげ討議を一層活発にするためポスターセッション (Poster Session) を設け、春季講演大会のみに実施することとなりました。

ポスターセッションとは何か? ポスターセッションは研究発表の一型式でヨーロッパで始まり、アメリカ、カナダさらに日本でも一部採用されています。この方式は 15 分型式と討論会型式を代替する一つの方法であります。従来方式での聴講者は会場で、しばしば、事前にプレプリントをもつとよく読んでくるべきだったと反省しつつ質問の機会をうかがうか、次の本当に聴きたい講演をいたづらに待つ場合が多く、他方、講演者は時間を知らせるベルの数をかぞえながら本当に聴いてほしい人の人数を考えていることがあります。

そこで従来型式の短所を改良するため、講演者にポスターをはる場所とかなり長い時間 (約 2 時間) を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与えるのがこのポスターセッションであります。したがってこの方式で従来方式にない個人間の十分な接触と深い討論が期待されます。

ポスターセッションはどのように運営されるか? 講演者には室内にポスターをはれる幅 1.8m×高さ 2.0m の壁面 1 面と幅 0.9m×高さ 2.0m の側壁面 2 面と机が一卓与えられます。今回はこの単位のブースが 10 ケ用意されます。発表時間は午前又は午後に約 2 時間あたえられ、講演者 1 名は必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限りポスター、写真、試料、データなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも講演者の話を聞くことができます。すなわち各々の講演の運営は講演者と聴講者に大幅にまかされます。

しかし、現在、従来型式の講演を全部この方式に置き換えることは考えられず、題目の種類により限界があると考えています。そこで今回製鉄、製鋼、材料部門の内基礎分野の各 10~15 講演をポスターセッションで運営いたします。

- (1) 製鉄・製鋼・材料部門の内基礎分野の講演希望者でポスターセッションを希望する場合講演申込書の右側に「P.S 希望」と朱筆して下さい。ただし申込多数の場合には一般講演に変更することもあります。
- (2) 一般講演の中から編集委員会でポスターセッションの適用のおすすめをすることがあります。
- (3) 講演の前刷りは従来方式と同様であります。
- (4) ポスターセッションの時間は次のようにいたします。

	ポスター 搬入	講演・討論	撤 去
午 前	9:30 ~10:00	10:00 ~12:00	12:00 ~12:30
午 後	12:30 ~13:00	13:00 ~15:00	15:00 ~15:30

- (5) ポスターの大きさは A4 版又は B4 版 2 m 離れても十分にみえるようにして下さい。グラフ、表は一枚に一図又は一表とし、写真やサンプルはポスターにあらかじめ張っておいて下さい。ポスターは壁面に画鋲で張り、所定の壁面に約 20 枚 (B 4 版) 一度に張れます。

(次ページへつづく)



- (6) ポスターに書く文字は2 m離れてもみえるように日本字は10mm以上、英字や数字は7mm以上の大きさにして下さい。
- (7) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号、演題、所属、発表者を記しておきます。
- (8) ポスターは1枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。
- (9) 講演者には胸につける番号札をさし上げますので講演中つけて下さい。
- (10) 机を置きますので、サンプル、模型等の展示にご利用下さい。
- (11) スライドは使用できません。
- (12) ポスターセッションへの申込方法は、一般講演申込と同じです。

昭和 53 年秋季 (第 96 回) 講演大会討論会

討 論 講 演 募 集 の お 知 ら せ

昭和 53 年秋季 (第96回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 製鉄ダスト類の有効利用 座長 高橋 愛和

焼結、高炉、転炉その他の集塵ダストの有効利用としては、ロータリーキルンにより還元鉄を製造し、その際発生する二次ダストを亜鉛製錬工場で処理する方法が広く行われている。製鉄ダスト類の有効利用の重要性に鑑み、製鉄ダストによる還元鉄の製造、製鉄ダストの性状と選鉱による亜鉛等の分離、非鉄製錬の立場より見た含亜鉛ダストの処理、ダストコールドペレット等より広い視野に立つて討論したい。奮って応募されることを期待します。

2) スラブ連続における高速鋳造 座長 井上 俊朗、川和 高穂

連続鋳造の生産性向上は製鋼工程における重要な課題として従来から各社の関心を集めている。その中で、高速化による生産性向上は、ブレクアウト等の操業トラブル、内部割れ、中心偏析等の内部欠陥、あるいは縦割れ等の表面欠陥を誘発する傾向があり、それらを解決するために各社において多大の努力が払われている。

最近では、冷延用低炭素鋼のスラブは1.0m/min以上が常用され、一部には1.5m/minを越える鋳込速度も採用されるに至っているが、その多くは設備操業両面にわたる多角的な技術の改善、開発に負うところが大きい。

今回はスラブの高速鋳造技術について発表を頂き、関心ある方々による幅広い討議を希望する。

3) 表面処理鋼板の諸問題 座長 伊藤 伍郎

問題は製造上と使用上の2つに大別されるが、ここでは使用上の問題点をとりあげたい。それは、製造技術に関しては別に企画があると聞いているし、それにまた処理鋼板の製造条件と使用性能との関連といったことは従来あまり論じられていないと考えられるからである。表面処理鋼板の使用性能は原板の性質、処理法の種類および製造条件などは勿論、使用時の材料選択や環境処理などにも関係した問題であるから、これらに関連した広い分野からのご発表をお願いしたい。

4) 表面分析技術の進歩と冷延鋼板の表面物性 座長 白岩 俊男

最近、ESCA、IMMA (SIMS)、AES、等の発達により、冷延鋼板表面の数Åから数千Åに至る表層部の情報が著るしく増大してきた。この問題について、分析技術やその信頼性、特徴等の面と、得られた分析結果即ち鋼板表面の合金元素の濃縮や化学結合状態と製造工程、製品評価、あるいは表面の反応性等との関連を討論し、この新しい技術分野におけるビジョンを得ることを意図している。

5) 低酸化ポテンシャル雰囲気中での耐熱合金の腐食と強度 座長 田中 良平

微量の酸化性ガス成分を含む真空、アルゴンあるいはヘリウムなど、いわゆる低酸化ポテンシャル雰囲気では、耐熱鋼および耐熱合金は腐食と強度の両面において特異な挙動を示すことが知られ、新しい高温材料の開発と利用に関連して重要な研究課題となりつつある。この問題について、広い視野から突込んだ討論を行いたい。酸化物皮膜の構造や物性、内部酸化、脱炭や脱クロム現象、それらが高温のクリープ強さや疲れ強さに及ぼす影響などについて多数の発表と活発な討論を期待します。

6) 鉄鋼の高温変形 座長 田村 今男

鉄鋼製造工程における熱間加工がきわめて大きな役割を演じており、低温圧延や連続鋳造直接圧延を指向する場合、高温変形挙動についての理解が必須である。

即ち、熱間加工中に起る動的再結晶の本性や加工直後におこる静的再結晶挙動、それらによる微細化と組織の改善、その後に起る変態挙動に対する作用と最終的な性質に対する影響、合金鋼における変形能、変形抵抗の本性およびそれらの測定法など重要問題が山積している。広い分野からの多くの論文の発表と、発活な討論を期待します。

2. 申込締切日 昭和 53 年 2 月 15 日 (水)

3. 申込方法 本誌会告 (クリーム頁) 末に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 53 年 5 月 15 日(月)
原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内(表、図、写真を含め 6,700 字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。
6. 講演テーマ・ 講演者の発表 「鉄と鋼」第 64 年第 8 号(昭和 53 年 7 月号)にて発表いたします。
7. 講演内容の 発表 「鉄と鋼」第 64 年第 9 号(8 月号)に講演内容を掲載いたします。
8. 討論質問の 公募締切日 昭和 53 年 9 月末日
前記 9 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。
申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 50・51 回西山記念技術講座開催のお知らせ

——鋼管製造技術の最近の進歩——

主 催 日 本 鉄 鋼 協 会

第 50・51 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 第 50 回 東京 昭和 53 年 2 月 15 日(水), 16 日(木)

農協ホール(東京都千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311)

第 51 回 大阪 昭和 53 年 3 月 9 日(木), 10 日(金)

大阪科学技術センター大ホール(大阪市西区靱 1-118 うつぼ公園隣 TEL 06-443-5321)

II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:30	鋼管の用途の現状と将来	共同研究会鋼管部会長・住友金属工業(株)本社	田 中 孝 秀
	12:30~14:30	最近の鋼管製造技術の研究成果	新日本製鉄(株)生産技術研究所	中 島 浩 衛
	14:40~16:40	鋼管製造設備の最近の進歩	石川島播磨重工業(株)鍛圧機械設計部	木 賀 武 司
第 2 日	9:30~11:30	大径溶接鋼管の最近の製造技術の進歩	住友金属工業(株)鹿島製鉄所	馬 場 善 禄
	12:30~14:30	中小径溶接・鍛接鋼管の製造技術の最近の進歩	川崎製鉄(株)知多工場	神 崎 文 暁
	14:40~16:40	継目無鋼管の製造技術の最近の進歩	日本鋼管(株)京浜製鉄所	小 滝 昌 治

III 講演内容

1. 鋼管の用途の現状と将来 鋼管部会長, 住友金属工業(株) 田 中 孝 秀

鋼管の用途は、一般配管用、ボイラ用、原子力用、化学工業用、油井用、パイプライン用、機械構造物、土木建築用等、多岐にわたっている。それぞれの用途分野における技術の発展と共に鋼管に要求される性質と安全性はより高度なものとなり、又一方鋼管製造技術の進歩により鋼管性能の向上が計られその用途範囲は拡大されつつある。

用途分野別に高温、低温、高压、腐食環境等の使用条件に適した鋼管の種類、性能に関し現状をのべ、従来につき展望してみたい。

2. 最近の鋼管製造技術の研究成果 新日本製鉄(株) 中 島 浩 衛

溶接鋼管及びシームレス鋼管の製造技術に関する最近の注目される主な研究成果、進歩状況について述べる。電縫鋼管、UO鋼管及びスパイラル鋼管に関して成形過程の変形特性、負荷特性の理論的、実験的研究及び材質強度変化挙動について述べ、さらに今後の課題についてもふれる。さらにシームレス鋼管の圧延技術に関して、素材からの穿孔圧延技術について注目される名種の新技術要素の発展、また新しい穿孔法についてもふれる。さらに後工程での圧延制御技術の研究状況について述べる。

3. 鋼管製造設備の最近の進歩 石川島播磨重工業(株) 木 賀 武 司

石油危機以降わが国においても、油井管製造のための中径継目無鋼管製造設備の建設が相ついでおこなわれ、電縫鋼管についても薄肉高級鋼管製造のため新しい成形方式をとり入れた設備が建設されている。これらの新設備には生産性の向上、自動化および省力化を旨として、各種の新技術がとり入れられている。これらの新設備の中からいくつかの新技術を紹介して、最近の鋼管製造設備についてのべる。

4. 大径溶接鋼管の最近の製造技術の進歩 住友金属工業(株) 馬 場 善 禄

大径溶接鋼管は、近年の急速なエネルギー開発により、その有効な輸送手段として、ますますその役割を増しつつある。特にエネルギー危機以降、苛酷化する環境条件を克服し、大量かつ高品質な鋼管を供給することが強く求められている。

ここでは、大径溶接鋼管の製造法を全般的に紹介し、特に UOE とスパイラル鋼管の製管技術の発達や、鋼板・溶接材料の進歩について論ずると共に、今後の大径鋼管の製造技術の発展の方向を検討した。

5. 中小径溶接・鍛接鋼管の製造技術の最近の進歩 川崎製鉄(株) 神 崎 文 暁

近年、電気抵抗溶接鋼管製造技術の進歩により、中径サイズにおいては高グレードラインパイプ、小径サイズにおいては圧入、機械構造用など、高級鋼管分野への進出がいちじるしい。最近の素材材質の向上、成形、溶接技術の進歩および品質保証体制の動向について述べる。

また鍛接鋼管製造については、主として生産性の向上および品質の安定という方向で技術開発が行なわれてきた。最近の加熱炉の能力向上、熱制御機器の活用、非破壊検査機器の導入について言及する。

6. 継目無鋼管の製造技術の最近の進歩 日本鋼管(株) 小 滝 昌 治

近年、継目無鋼管の分野においては用途面で多様化、高級化の一途を辿り、それに対応して製造技術の進歩にも目覚ましいものがある。

ここでは、各種継目無管製造法および製造技術の概要と最近の進歩、発展について述べ、さらに、それらの新技術に基づいた設備の設置状況や連続鑄造素材の適用状況についての紹介を行なう。

IV 聴講無料(事前の申込は必要ありません)

V テキスト代 3,000 円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ・鉄鋼業における省エネルギー

原稿締切日：昭和 53 年 3 月 10 日(金)

本特集号は、最近数年間に研究され開発された鉄鋼生産技術の省エネルギー化に関する技術集成として編集する方針であります。オイルショックに象徴されるような日本のエネルギー事情のもとで、不斷の努力が重ねられた結果、鉄鋼生産プロセスの各分野において、省エネルギーを目的とした多くの研究及び技術開発が行われて来ました。そこで省エネルギー技術の研究及び開発過程の報告、また操業上の問題や製品の品質への影響から来る問題の解決についての研究や報告をまとめておくことは時宜に合ったことであると考えます。

なお、依頼する展望及び技術資料において、各プロセスの分野における概括的な問題から製鉄業のおかれているエネルギー事情がとり上げられる予定であります。そこで、論文又は技術報告をまとめる場合には、展望や技術資料との重複を避けて、できる限り技術そのものの問題に絞って書いて頂くようお願いいたします。また論文や報告が短篇幅的なものとなつても、技術集成として考えている本特集号の性格から歓迎する方針であります。

記

1. テー マ 鉄鋼業における省エネルギー
2. 原稿締切日 昭和 53 年 3 月 10 日(金)
3. 発行 鉄と鋼第 64 年 13 号(昭和 53 年 11 月号)
4. 原稿枚数 図、表、写真を含めて所定の原稿用紙 50 枚以内(厳守)(刷上り 10 頁以内)
5. 送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 電 03-279-6021(代)

(注) 原稿表紙に「省エネルギー特集号」と朱書してください。

昭和 53 年秋季(第 96 回)講演大会開催日のお知らせ

昭和 53 年度秋季講演大会は、次の通り開催されることが決定しましたのでお知らせいたします。

期 日 昭和 53 年 10 月 3 日(火)、4 日(水)、5 日(木)(見学会 6 日)
場 所 富山大学(富山市五福 3190)

3rd INTERNATIONAL IRON AND STEEL CONGRESS 1978

37th IRONMAKING CONFERENCE

61st NATIONAL OPEN HEARTH AND BASIC OXYGEN STEELMAKING CONFERENCE

アメリカの American Society for Metals, The Iron and Steel Society of AIME の共催で、上記 3 件の国際会議が 1978 年 4 月 16 日 (日) から 20 日 (木) までの 5 日間、Chicago の Palmer House Hotel を会場として同時開催されます。日本からは 33 件の論文が発表される予定です。

登録費は 50 米ドルで、上記 3 会議のいずれにも有効となります。奮ってご参加下さいませようご案内いたします。

I. PRELIMINARY PROGRAM

Sunday, 16 April

Plenary Congress Session I

—Opening Ceremonies

Monday, 17 April

Plenary Congress Session II

—Capital, Raw Materials and Fuels

—Opening Ceremonies of National Open Hearth and Basic Oxygen Steelmaking Conference

TECHNICAL SESSIONS

New North American Blast Furnaces (Ironmaking Conference)

New Coke Oven Facilities (Ironmaking Conference)

The Effect of Raw Material Properties on Blast Furnace Performance (Process Technology Division)

Continuous Casting I (NOHBOS Conference)

Refractories I (NOHBOS Conference)

Ladle Metallurgy (Process Technology Division)

Top Blown BOF, Automation and Control, Pneumatic Steelworking Seminar I (Process Technology Division)

Additions and Solidification (Process Technology Division)

Tuesday, 18 April

Direct Reduction—Operations and Production (Process Technology Division)

Steelmaking I (NOHBOS Conference)

Continuous Casting II (NOHBOS Conference)

Refractories II (NOHBOS Conference)

AOD Practices Pneumatic Steelmaking Seminar II (Process Technology Division)

Steelmaking and Deoxidation (Process Technology Division)

New Processes and Methods (Process Technology Division)

FIELD TRIP to Inland Steel Company

Blast Furnace Shaft Design—Cooling Systems and Refractories (Ironmaking Conference)

Improving Coke Quality (Ironmaking Conference)

Raw Materials—Pelletizing (Ironmaking Conference)

Metallurgy I (NOHBOS Conference)

Steelmaking II (NOHBOS Conference)

Casting III (NOHBOS Conference)

Slags and Refractories (Process Technology Division)

Utilization of Direct-Reduced Iron in Electric Furnaces (Electric Furnace Division)

BOF Related Theoretical Studies—Pneumatic Steelworking Seminar III (Process Technology Division)

Wednesday, 19 April

Blast Furnace—General (Ironmaking Conference)

Coal Selection and Coking (Ironmaking Conference)

Raw Materials—Sintering (Ironmaking Conference)

Steelmaking III (NOHBOS Conference)

Metallurgy II (NOHBOS Conference)

Inclusions in Steel (Process Technology Division)

Advance in Electric Furnace Steelmaking (Electric Furnace Division)

Ironmaking-Iron Oxide Reduction (Process Technology Division)
Submerged Injection Steelmaking Pneumatic Steelmaking Seminar IV (Process Technology Division)
Large International Blast Furnaces-Operating Experience, Relines and Improvements (Ironmaking Conference)
Coke Oven Operation (Ironmaking Conference)
Internal Recycling in the Iron Blast Furnace (Process Technology Division)
Speciality Steelmaking Pneumatic Steelmaking Seminar V (Process Technology Division)
Future Electric Furnace Design (Process Technology Division)
Operating Optimization of Electric Furnace Steelmaking (Electric Furnace Division)
Large Ingot Casting by ESR (Tentative) (Electric Furnace Division)
FIELD TRIP to U.S. Steel Gary Works

Tuesday, 20 April

FIELD TRIP to Bethlehem Steel Burns Harbor Works

II. Field Trip

Tuesday, A. M., 18 April

Trip to Inland Steel Company, East Chicago, Indiana.

Tour of new #7 blast furnace.

Wednesday, P. M., 19 April

Trip to U.S. Steel Gary Works, Gary, Indiana.

Tour Q-BOP Shop.

Tuesday, 20 April

Trip to Bethlehem Steel Burns Harbor Works, Burns Harbor, Indiana.

Tour ironmaking and steelmaking facilities.

III. Social Events

Cocktail Reception-Sunday, 16 April

Process Technology Division of the Iron and Steel Society of AIME Luncheon-Tuesday, 18 April

The Iron and Steel Fellowship Dinner and Reception-Tuesday, 18 April

IV. Congress Registration Fee

\$ 50. (Congress Proceedings/Attendance at any sessions of IISC,

Ironmaking Conference and NOHBOS conference/Attendance at the Sunday night Reception)

V. Hotel Room Accommodations

Palmer House Hotel, Chicago

VI. Congress Secretariat

Congress Secretariat, IISC'78

American Society for Metals

Metals Park, Ohio 44073

U.S.A.

Phone: 216/338-5151

詳細につきましては、当会に Second Circular (1977年9月付) が届いておりますので、ご請求下さい。

申込先: (社) 日 本 鉄 鋼 協 会 国際課

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階 TEL. 03-279-6021

IISC' 78 参加のための団体旅行について

当会では IISC '78 に参加される方々のために、東京←→シカゴ間の団体旅行を計画しております。
出発 4 月 14 日(金)、帰国 4 月 24 日(月)で、往復の飛行機のみ団体行動とし、現地滞在中は自由行動となります。また、ご希望の方は Congress 会場の Palmer House Hotel に宿泊することができます。

この団体旅行を利用される方、また興味をお持ちの方は、(社)日本鉄鋼協会国際課あて、①団体旅行を利用する/興味がある ②宿泊斡旋について ③氏名 ④住所(自宅・勤務先とも) ⑤所属 ⑥同伴者の有無をご連絡下さい。

九州支部

第14回湯川記念講演会開催案内

本会九州支部では大分市において、湯川記念講演会ならびに見学会を下記により開催いたします。多数ご参加下さるようご案内いたします。

記

1. 期 日 昭和53年2月13日(月)

2. 講演会

- 1) 会場 鋼鉄ビル会議室(新日鉄大分製鉄所管理センター前)

大分市西之洲1(大分駅下車タクシー約20分)

- 2) 講演ならびに講師

13:00~14:20 製錬関係

東北大学教授 不破 祐君

14:20~16:00 鉄鋼の相変態と熱処理

京都大学教授 田村 今男君

3. 見学会

10:00~12:00 新日本製鉄(株)大分製鉄所

見学ご希望の方は1月31日(火)までに九州支部(〒805 北九州市八幡東区枝光 1-1-1 新日本製鉄(株)生産技術研究所内、電話 093-662-8111, 内線 3521)

事務局 藤崎宛、葉書または電話にてお申込み下さい。

第16回原子力総合シンポジウム開催案内

共催：日本原子力学会、日本鉄鋼協会、ほか

期日：昭和53年2月15日(水)、16日(木)

場所：国立教育会館(大会議室、中会議室)

2月15日(水)

A会場(大会議室)(9:45~18:00)

特別講演 核燃料サイクル確立の展望

原子力委員 村田 浩

基調テーマⅠ 新国際情勢下における燃料サイクル

- (1) ウラン資源 動 燃 斎藤 光雄
- (2) ウラン濃縮 東工大 高島 洋一
- (3) 再処理をめぐる国際情勢 動 燃 中島健太郎
- (4) プルトニウムの利用計画 動 燃 天沼 倂
- (5) トリウムサイクル 原 研 下川 純一
- (6) 廃棄物の処理・処分 動 燃 瀬川 猛
- (7) 核燃料の輸送 東工大 青木 成文
- (8) パブリック・アクセプタンス

原 電 今井 陸吉

パネル討論会 わが国の核燃料サイクルの確立

- ① 核燃料サイクルをめぐる国際情勢

東 大 大島 恵一

- ② 軽水炉のウラン資源および核燃料サイクル

東 電 豊田 正敏

- ③ ウラン濃縮および再処理 動 燃 中村 康治

- ④ 廃棄物処理処分・新燃料サイクル

原 研 野村 末雄

- ⑤ 高速炉と核燃料サイクル 動 燃 大山 彰

B会場(中会議室)(11:00~18:00)

総合講演 1. 効率的な学術情報伝達への提言

- (1) 学術情報伝達の効率化と濃縮

東 大 三島 良績

- (2) 電算機による文献検索の有用性

科技情センタ 大井 正一

- (3) 国内学術誌の重要語付与傾向

原 研 海老沼幸夫

総合講演 2. 加速器による材料の研究

- (1) 材料の立場からの期待 原 研 長崎 隆吉

- (2) イオン加速器による炉材料の研究

イ. 筑波大タンデム 筑波大 升田 公三

ロ. 原研タンデム 原 研 土井 健治

- (3) 強力中性子源による核融合材料の研究

原 研 塚田甲子男

小幡 行雄

講演 1. 高温ガス炉の熱交換器の開発

石 播 中西 武徳

総合講演 3. ナトリウム加熱蒸気発生器の安全性

- (1) 蒸気発生器の最近の状況 動 燃 中井 靖

- (2) 蒸気発生器の安全設計、信頼性

船 研 成合 英樹

- (3) 大リークの実験と解析 動 燃 堀 雅夫

- (4) 小リークの実験と解析 東 芝 根井 弘道

総合講演 4. 放射線による非破壊検査の諸問題

- (1) ラйнаックによる非破壊検査の現状と

問題点 三菱電機通電 藤田 彪太

- (2) 中性子による 〃 名 大 松本 元一

2月16日(木)

A会場(大会場)(10:00~18:00)

基調テーマⅡ 炉材料の研究開発

Ⅱ-1 核融合炉材料の研究開発

- (1) 材料の研究開発 東理大 橋口 隆吉

- (2) 〃 の放射線損傷(バルクおよび表面)

東 大 石野 葉

- (3) 〃 と冷却材との両立性 金材研 岡田 雅年

- (4) の水素同位体透過 東 大 山脇 道夫

一昼 休一(12:00~13:00)

Ⅱ-2 照射効果を中心として

- (1) 軽水炉圧力容器の健全性

イ. 課題の提起 原 研 古平 恒夫

ロ. その対策

(高温構造安全技術研究組合) 藤村 理人

- (2) 高速炉-被覆管、炉内構造の照射効果

イ. 課題の提起 原 研 白石 健介

ロ. その対策 動 燃 石田 泰一

Ⅱ-3 原子炉冷却材環境を中心として

- (1) 軽水炉の応力腐食割れ問題

イ. 課題の提起 原 研 近藤 達男

ロ. その対策 日 立 三木 実

- (2) 高速炉ナトリウム環境効果

イ. 課題の提起 動 燃 厚母 栄夫

ロ. その対策 石 播 松本 圭司

- (3) 高温ガス炉ヘリウム環境効果

イ. 課題の提起 金材研 吉田平太郎

ロ. その対策 富士電機 仲西 恒雄

B会場(中会議室)(10:00~12:00)

総合講演 5. 保障措置システムの現状と課題

- (1) 保障措置をめぐる国際的動向

核物質管理モニター 川島 芝郎

- (2) わが国の保障措置制度 科技厅 栗原 弘善
(3) システム技術としての保障措置 原 研 平田 実穂

講演 2. ピコ秒放射線計測技術の研究開発と展望

原 研 黒田 寛人

総合講演 6. RI 利用の現状と将来の展望

- (1) 密封小線源装備機器 原 研 小林 昌敏
(2) カリフォルニウムの利用 原 研 榎本 茂正
(3) 大線源としての利用 原 研 重松 友道

講演 3. 安全性および核拡散防止から見た熔融塩炉

原 研 古川 和男

総合講演 7. 放射線防護における最近の国際的課題

- (1) 1977年国連科学委員会(UNSCEAR)

報告概要 放医研 市川 龍資

- (2) ICRP 1977 年勧告(ICRP-26)の概要

浜松医大 高橋 信次

総合講演 8. 原子力発電所における放射線被曝

低減対策

- (1) BWRの例 東 電 鈴木 範雄

- (2) PWRの例 関 電 檜木 幹夫

総合講演 9. 医学における放射線利用

- (1) 高エネルギー加速器の医学利用

放医研、梅垣洋一郎

- (2) がんのRI診断の進歩 筑波大 秋貞 雅祥

申し合せ先 105 東京都港区新橋 1-1-13

東電旧館 106 号室 日本原子力学会気付

運営委員会事務局 03-591-1927

第15回理工学における同位元素研究発表会

共催：日本アイソトープ協会、日本鉄鋼協会、ほか

会 期 昭和53年6月27日(火)～6月29日(木)

会 場 国立教育会館(東京都千代田区霞が関 3-2-3 文部省となり)

発表論文

(1) 内容 それぞれの研究分野において、その専門的成果をうるにいたった同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。

研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

(2) 発表申込区分 プログラム編成の便宜上、つぎのように申込区分を設けます。

① 同位元利および放射線の基礎的データに関するもの

② 放射線照射のための線源および装置に関するもの

③ 製造、分離、標識化に関するもの(安定同位元素も含む)

④ 測定法および測定器に関するもの(安定同位元素も含む)

⑤ 放射線利用機器に関するもの(ラジオグラフィ、エネルギー利用、発光塗料なども含む)

⑥ 放射線照射効果に関するもの

⑦ トレーサー利用に関するもの(安定同位元素も含む)

⑧ 分析に関するもの(安定同位元素も含む)

⑨ 安全取扱いに関するもの(健康管理、廃棄物処理、汚染除去に関するものも含む)

⑩ 地球科学、宇宙科学および環境科学等に関するもの(安定同位元素も含む)

⑪ その他

(3) 発表時間 1件の発表15分以内の予定

発表者の資格 発表申込者が所属する主催学協会の年会(大会)等の規定または慣例に従う。

発表申込み 所定の申込書(1件1通)によりお申込み下さい。所定の申込書は下記あて請求して下さい。

113 東京都文京区本駒込 2-28-45

日本アイソトープ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会

☎(03) 946-7111

発表申込締切：昭和53年2月28日(火) 必着

講演要旨：講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第、所定の原稿用紙(1,400字程度)をお送りします。

講演要旨原稿締切：昭和53年4月15日(土) 必着

昭和53年度塑性加工春季講演会(第9回)

共催：日本塑性加工学会、ほか 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

開催日：昭和53年5月17日(水)、18日(木)、19日(金)

会 場：広島 RCC 文化センター(6、7階会議室)

〒730 広島市橋本町 5-11,

☎0822(22) 2277

講演申込締切：昭和53年2月10日(金)

講演申込要領：

ハガキ大の用紙に横書きで「昭和53年度塑性加工春季講演会申込」と標記し、下記要領でお申し込み下さい。

なお、講演申込整理費500円(郵便切手にても可)を同封して送付願います。

記

1. 題目及び分野別番号、2. 概要(50字程度)、3. O. H プロジェクター使用の有無、4. 氏名、所属学会名、会員資格(連名の場合は講演者に*印を記すこと)。

勤務先、5. 通信連絡先、電話番号-(内線番号)

申込先：日本塑性加工学会

(〒106 東京都港区六本木 5-2-5 トリカツビル内)

講演論文集：

オフセット印刷、1292字詰原稿用紙4枚(図表を含む)、刷上り4ページ相当、詳細執筆要領、原稿用紙、講演要領は後日講演者にお送りいたします。

論文集原稿締切：昭和53年3月11日(土)

分野別番号：

1. 理論及び弾塑性解析、2. 計測及び材料試験、3. 材料及び挙動、4. 工具、5. 潤滑、6. 加工機械、7. 圧延、8. 押出し、9. 鍛造、10. 引抜き、11. せん断、12. 板材成形、13. 転造、14. 矯正、15. 表面加工、16. 高速加工、17. 高圧加工、18. 接合、19. プラスチック、20. ロール成形、21. スピニング、22. その他、